# 令和7年度　西東京市立 碧山 小学校　学校評価表

| | |
|---|---|
| 学校教育目標 | ◎自分でよく考え工夫する子　○ねばり強く前向きに取り組む子　○人の立場に立って行動する子 |
| 目指す学校像 | 子どもが生き生きと前向きに活躍し、保護者・地域から信頼される学校<br>～一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく教育活動を通して～<br>（個性の尊重）　（共生の重視） |
| 目指す児童像 | ・課題解決のために主体的に考え創意工夫する子　・物事を前向きにとらえ、積極的かつねばり強く取り組む子<br>・人とのかかわりを大切にし、力を合わせて活動する子 |
| 目指す教師像 | ・「子供を主語とする教育」を推進する。<br>・学校組織の一員として物事に協働して取り組む。　・保護者、地域からの相談を真摯に受け、信頼を積み重ねる。 |

| | | 後期学校自己評価 | | | | 後期学校関係者評価 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 努力目標 | 前期評価 | 後期評価 | 学校の取組及び改善策 | 評価 | 記述欄 |
| 確かな学力の向上 | Q1<br>子供が「できる・わかる」を実感し、学び続ける意欲をもてるよう、授業の工夫改善を行っていたか。 | 3 | 3.0 | 3.5 | 校内研究を軸とし、「どの子も分かる、できるが実感できる授業」を目指して協議することで、多様な児童に対応する授業を実践することができた。また、研究授業での成果・課題を各教員が自身の授業で実践し、共有することができた。次年度は、校内・校外含め、日頃から授業実践を見合える環境を整えることが必要であると考える。 | 3.7 | 先生方の取り組みにより評価が向上したことから、成果があったと感じている。今後も「わからない」と安心して言える教室づくりや、児童がゆっくり考える時間を大切にしてほしい。一方で、授業に十分参加できていない児童が見られた点が気になった。 |
| | Q2<br>朝読書や読書旬間を通して、児童がすすんで読書に親しむよう努めることができたか。 | 3 | 3.0 | 3.2 | 学校司書と連携して、学習した単元に関連する本を計画的に借り、学級文庫に加えて、児童の興味・関心を広げる本を教室に置くようにした。２学期の読書旬間では、図書委員会の児童が、主体的に本を読むことでマスを進める迷路を作成するなど、すすんで読書に親しもうとする機会を作った。次年度は、異学年交流での読み聞かせや保護者による読み聞かせボランティアなど、様々な形態で読書に親しむ機会を作っていく。 | 3.5 | 読書は重要であり、地域や保護者ボランティアとの連携に改善の方向性が見える。以前あった読み聞かせの会はいい取組だった。児童の評価は前期から大きな変化がなく、次年度に期待したい。楽しい活動で読書の入口を広げつつ、読書が苦手な児童への個別対応も必要。 |
| 豊かな心の育成 | Q3<br>いじめをしない、させない集団作りを行うとともに、差別や偏見をもたせない学級経営、学年経営を行うことができたか。 | 3 | 3.5 | 4.0 | いじめは絶対にしてはいけないことを年3回のいじめに関する授業をはじめ、日頃から繰り返し指導を重ねている。学期毎に生活アンケート（いじめ・虐待・体罰などの聞き取り）を行い、児童自らが助けを求めやすい環境づくりに努めている。児童がいじめを訴えてきたときや、教員がいじめの疑いを見つけたときは、基本的には複数の教員で対応にあたり、いじめ対策防止委員会で対策を検討している。関係する児童の保護者への報告も適宜行っている。経過観察を行うとともに、再発防止に努めている。 | 3.7 | いじめの理解を子供と保護者に伝えいる機会を継続的に設け、いじめる子への背景にも配慮してほしい。８%の児童が先生に相談できていない現状を踏まえ、より多くの声を丁寧に聞く姿勢を継続することを期待する。先生方の努力は理解する。 |
| | Q4<br>元気な挨拶、基本的生活習慣の定着を図り、きまりを守る児童の育成に努めることができたか。 | 3 | 3.5 | 3.4 | 「あったか先生」の6項目に基づいて指導に取り組むことができた。児童が相談しやすいように、教員から積極的に声掛けをしたり、複数の教員で見守ったりしている。常に教員間で児童の様子についての情報を共有し、管理職への相談も円滑に行えた。代表委員会の児童会活動を活用して、あいさつ週間の取り組みを行い、あいさつが自然にできるようになるための土壌を築いてきた。来年度も、教員間の連携を生かし、多くの目で児童を見守り、丁寧に聞き取りを行うなど、日頃から児童との信頼関係を築くようにしていく。 | 3.8 | 下校時のパトロールで声掛けの反応が増え、挨拶が定着しつつある。生活習慣や言葉遣い、清掃、交通ルールの更なる指導を望む。「あったか先生」の人権目的を知り、学校が他者意識を学ぶ場であることを実感。 |
| | Q5<br>児童の現状を受け止め、発達段階、個に応じた指導を行うことができたか。 | 3 | 3.6 | 3.8 | 前期の取り組み内容に加えて、今年度は授業のユニバーサルデザイン化について研究を行っており、通常の学級の指導の中で、配慮が必要な子供もそれ以外の子供も一緒に学んでいける授業について教職員が修養を深めている（いわゆる東京都の支援レベル１の部分）。また、しらうめ教室の運用が２年を経過し、指導滴了により退室して通常学級での支援のみで学ぶ児童も増えてきた。そのため、支援につなぐことだけでなく、通常の学級や授業の中でどのように支えていくかを、職員みんなで考えていく必要がある。 | 3.8 | 個に応じた指導を全教職員で考えることが重要。教育相談員や保護者と連携した、学校としての具体的な体制づくりを望む。 |
| | Q6<br>道徳の学習を計画的に実践しているか。 | 3 | 3.8 | 4.0 | 各学年、年間指導計画に沿って毎週・毎月の学習を実践している。また、学期に１回ある「いじめに関する授業」にも道徳の学習を割り当て、いじめや差別、偏見を許さない学級経営につなげた。今後も道徳の学習を軸に、道徳教育を学校全体で進めていき、児童がよりよく生きるために重要な素地づくりを家庭と連携して行っていきたい。 | 3.8 | 落ち着いた教室で心に響く授業が展開できるよう今後も研究を続けて欲しい。他人に迷惑をかけない思いやりの心を育ててほしい。道徳授業地区公開講座でのグループワークでは児童が素直に考え発表しており、さらに考えをしていた。さらに考えを深め合う場になることを期待する。 |
| 健やかな体の育成 | Q7<br>体力テストの課題運動を体育の導入に位置づけるなど、児童の体力向上を進めることができたか。 | 3 | 2.9 | 3.4 | 12月には「朝遊び」（課題運動をテーマに、自由参加の校庭遊びの時間）に新たに取り組んだ。毎日100名以上が参加し、主体的に運動に親しんだ。リレーなど、なかなかできない運動に取り組めた児童も多く、運動経験を積めた。また、朝すっきりとした気持ちで学習に臨んだと感じた児童が多く、運動のよさを実感したようだった。3学期はなわとびカードやマラソンカードに全校で取り組み、持久力を高めていく。来年度も、碧山小の課題に対応した取り組みを進めていく。 | 3.8 | 体を動かす遊びが減る中、学校での遊びを通じて自然に体力や身のこなしを身に付け、みんなと一緒に楽しむことが体力向上につながると期待している。朝遊びは児童に好評だった。前期課題の握力・投力の状況把握も望まれる。 |
| | Q8<br>養護教諭と連携しながら保健指導を行い、心身の健康づくりの充実に努めることができたか。 | 3 | 3.0 | 3.6 | 年２回の養護教諭による保健指導（子どもの健康課題に沿った内容）に加え、「薬物乱用防止教室」では学校薬剤師を講師に招き、より専門性の高い知識を子どもたちが学ぶことができた。今後も学校医等と連携しながら地域人材を活用し、より深い内容の学習ができるようにするとともに養護教諭が保健学習にも参画し、子どもたちの健康の保持増進を図っていきたい。 | 3.8 | 保健指導の充実と、学校医・薬剤師地域との連携強化を期待。子供たちの心身の安定把握や心配の軽減のため、保健室が安心できる場であることが重要。 |
| 地域と歩む学校 | Q9<br>地域の教材、人材を活用したり、体験的な活動を取り入れたりした教育活動を展開しているか。 | 3 | 3.3 | 3.7 | 2学期は、２年生生活科の町探検や５年生総合的な学習の時間の高齢者施設との交流など、地域の材を生かした学習が展開できた。学習を通して、より、地域への理解や関心を高め、実社会とのつながりを学ぶことができた。今後も地域と連携した教育活動を大切にして、より豊かな学びの充実を図るとともに、地域と学校の相互理解を基盤とした連携を推進していきたい。 | 3.9 | 学校外での学びや地域の人からの貴重な話を聞く機会は重要。総合的な学習の時間に、キャリア教育やボランティア教育の視点を取り入れた学習計画づくりを今後も期待される。 |
| | Q10<br>学校便り・学年便り・学校ホームページ等を通じて情報発信に努め，教育活動に対する保護者や地域の理解を深めることができたか。 | 3 | 3.0 | 3.5 | 学校便りや「すぐーる」などを通して、教育活動の発信を行うことにより、教育活度に対する理解は概ね深まっている。保護者とのやり取りで「すぐーる」を活用することにより、即時に情報のやり取りができることで普段の様子もこまめに保護者に伝えることができ、保護者からの高評価にもつながっていると考えられる。今後も更なる改善を図り、より一層の理解促進を目指す。 | 3.6 | ホームページは迅速に更新し、写真等で視覚的に伝える工夫をしてほしい。保護者同士のつながりを作ることで学校への協力も促進できる。 |
| 働き方改革 | Q11<br>仕事の効率化を図り、時間外労働を減らすことができたか。 | 3 | 2.3 | 2.5 | 業務の効率化に向けて、校務の見直しや業務改善に取り組んでいるものの、教員の業務負担の軽減を十分に実感できる段階には至っていない。業務内容を改めて整理・精選し、優先順位を明確にするとともに、校内の役割分担や、業務の進め方の共通理解を図る必要がある。教員の意見を取り入れながら、実効性のある改善を積み重ねていきたい。 | 3.2 | 先生方の努力は評価する。教職員や支援員、地域ボランティアとの協働体制構築も重要。来年度の通知表配付の回数減少で業務改善が期待される。 |